

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

「事業の寿命 30 年」(その 1) 三品 和広 (神戸大学大学院教授)

1. 企業を分析し、長期にわたって利益が右肩下がりになる企業を「戦略不全企業」と定義している。流通業を例にとると、百貨店の利益が企業群全体として悪くなった時期に、群全体として右肩上がりになったのは総合スーパーだった。それは消費者が収益のドライバーである衣料品の購入場所をスーパーに移したからで、きっかけはマイカーの普及だった。
2. その後、総合スーパーの利益が右肩下がりになり、ダイエーは潰れてしまったが、イトーヨーカ堂とジャスコ (現イオン) は生き延びた。前者はコンビニにシフトし、後者はショッピングモールを展開してデベロッパーになった。だが、ダイエーは主力事業の入れ替えができなかった。つまり、多くの経営者が腐心している従業員のモチベーションアップや商品の開発・仕入、在庫の管理や店の改装といったことでは、差はつかない。
3. 経営とは何かといえ、主力事業を入れ替えること、どういう事業に入れ替えるのかを決めるということだ。事業の入れ替えを志し実行するには、10 年や 20 年かかる。「戦略不全」とは経営者の頭がそういうことに向かないことを指している。かつて「企業の寿命は 30 年」といわれたが、事業の寿命が 30 年と考えればよい。

(参考:「週刊東洋経済」2011 年 7 月 30 日号)

幹部への活きた言葉

よい習慣は才能を越える

佐々木 常夫 (東レ経営研究所特別顧問)

1. 「よい習慣は才能を越える」。これは 40 年間のビジネス人生を通して得た私の実感です。たとえ失敗しても、その失敗の要因と、今後どうすればよいかを自分に問い、メモを書く習慣を身につける。私はこれを続けていくことによって、ミスの数も徐々に減り、遅刻の心配をすることもなくなっていきました。
2. 会社で期待される能力はペーパーの成績ではありません。大切なのはお客様や上司に対して礼儀正しい対応ができるかや、約束事を守るかどうかといったことばかり。そういうよい習慣をいかに身につけることができるかが長いビジネスマン人生においては重要になってくるのです。

(参考:「致知」:2011 年 11 月号)

ワンポイント経営アドバイス

リーダーの品性「無私」「公平公正」

樋口 武男 (大和ハウス工業会長兼 CEO)

1. 経営者が弱気にならず、懸命に前に進もうとしていけば、社員は「よし、応援しよう」と意気を感じるものです。私利私欲に走っているのか、心の底から会社を発展させようとしているのか。社員は経営者をよく見えています。
2. トップが人間力を磨き、その言動を間近で見た幹部や社員も、無私ので会社の発展のために全力を尽くす。会社全体がそうした無私の集団になればこれほど強いものはありません。3 年前に社内で創設した幹部育成のための「大和ハウス塾」で、「無私」や「公平公正」といったリーダーの品性を第一に教えているのも、そんな理由からです。

(参考:「日経トップリーダー」2011 年 10 月号)

古典に学ぶ

礼儀を尽くせ

「礼儀ほど美しいものはない」

現代の言葉でいうと、「礼儀とは、人の持てる最高の美德である」。本当の意味で「礼儀を尽くせる」ということは、「自分自身に自信をもっている」ということでもあります。たとえば意見が対立しても、相手の言い分をきちんと尊重することができる。それは「意見の相違ぐらいで自分は揺らがない」という自信であり、相手を尊重する礼儀の表れでもあります。

参考: 渋澤健「渋沢栄一 100 の訓言」: 日経ビジネス人文庫